

**新型コロナウイルス感染症
まん延防止等重点措置 適用中**

感染リスクが高い場所への外出などは控えてください。
マスク着用、こまめな手洗い、換気、3密の回避など
基本的な感染対策の徹底を!

東日本大震災から11年 ～災害への備え いま一度～

平成23年に発生した東日本大震災から11年が経ちます。近年でも「平成28年熊本地震」や「令和3年福島県沖地震」など多くの大地震が発生しています。地震はいつ襲ってくるか予測できないからこそ、日頃から自分たちにできる備えをしましょう。 問 市民安全課・内線217

我孫子市に影響を及ぼす大地震

関東地域でマグニチュード7クラスの大地震が今後30年以内に発生する確率は、約70%といわれています。

- ◎利根川流域を震源とする茨城県南部地震
- ◎千葉市から東京都区部などを震源とする東京湾北部地震
- ◎千葉県東方沖地震
- ◎相模トラフを震源域とする地震(関東大震災と同様)

震度と被害想定

震度6弱	○立っていることが困難になる ○壁のタイルや窓ガラスが破損・落下する ○耐震性の低い木造住宅は、倒壊することがある
震度6強	○這わないと動くことができない ○固定していない家具のほとんどが移動・転倒する ○耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損することがある
震度7	○自分の意志で行動できない ○ほとんどの家具が移動し、飛ぶ物もある ○耐震性の高い住宅でも傾いたり、大きく破損することがある

※東日本大震災で液状化の被害を受けた布佐・都地区の様子

自助と共助で身を守る

自助 自分の命は自分で守る

日頃から備えておくべきこと

- 室内の対策…突っかい棒や金具で家具を固定する、ガラスに飛散防止フィルムを貼る、避難経路に大きな家具を置かない
- 避難場所や避難所(QRコード参照)を確認しておく

備蓄の目安は3日以上

- すぐに持ち出せるよう、あらかじめかばんに詰めておく
- あると役立つ生活用品 ○懐中電灯 ○携帯ラジオ ○乾電池 ○食品包装用ラップ ○手袋・軍手 ○帽子 ○毛布 ○タオル ○使い捨てカイロ



共助 自分たちの地域は自分たちで守る

近隣住民とのコミュニケーション

お互いが共助の精神で行動できるよう日頃からコミュニケーションを重ねましょう。

自主防災組織での支援

共助の有効手段の一つで、市内190自治会中135の自主防災組織が活動しています(令和3年4月時点)。

近隣住民がお互いに被災者の救出・救護、出火防止、避難誘導を行うことで被害拡大を防止できます。



▲久寺家地区6自治会合同防災訓練の様子

地震ハザードマップをチェックしよう!

大地震発生時の最も大きな揺れと建物全壊率などを地域ごとに表示しています。地震への備えの第一歩として、住んでいる地域の特性を理解することが大切です。地震ハザードマップを掲載した「あびこハザードマップ」は、市民安全課、市民課、各行政サービスセンターで配布しています。また、市ホームページ(QRコード参照)からダウンロードできます。



▲令和2年9月発行「あびこハザードマップ」



◎家屋の倒壊と対策

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、死者の約8割が地震直後の建物倒壊や家具の転倒による圧死といわれています。建物の耐震性を確保することは、家族の命と財産を守るためにも重要です。市では旧耐震基準で建築された木造住宅の耐震診断費・耐震改修費、分譲マンションの耐震診断費の一部を助成しています(受付は毎年5月～12月ごろ)。詳しくは市ホームページ(QRコード参照)をご覧ください。



問 建築住宅課・内線526

災害への心得

発災時はむやみに移動しない

- ◎身の安全を確保し、職場や集客施設などの安全な場所にとどまる
- ◎災害用伝言サービスで、家族の安否などを確かめる
- ◎交通情報や被害情報などを入手する

日頃から準備すること

- ◎家族などと安否確認の方法、集合場所、帰宅経路の状況を確認する
- ◎スニーカーや懐中電灯、モバイルバッテリー、手袋、飲料水や食料などを用意する
- ◎携帯ラジオや地図を持ち歩く



誰もが安全に安心して暮らせるまちづくり

令和3年度は、市の災害対策全般にわたる「我孫子市地域防災計画」を見直しました。避難所における新型コロナウイルス感染症対策や大規模停電対策、避難所の機能強化や収容人数などの改善、大規模災害時の応援受け入れ体制、物資の輸送体制の整備などの減災対策を決定し、「公助」の充実を図っています。

災害時の被害を最小限に抑えるためには、日頃からの備えである「自助」と、近隣住民で協力し合う「共助」が重要です。ハザードマップによる避難場所などの確認や、メール配信サービスの登録などすぐに始められる「自助」に取り組み、災害が起きた際は地域で手を取り合う「共助」にご協力をお願いいたします。

今後も誰もが安全に安心して暮らせるよう、「自助」「共助」「公助」が連携した、災害に強いまちづくりを進めていきます。

市長 星野 順一郎